

## 道南地域の畜産経営

尾本 武 (渡島農業改良普及センター 渡島北部支所)

### 1. 道南農業の概要

#### (1) 農家戸数

農家戸数は年々減少し、平成17年は5,700戸となっています。専兼別では、専業農家率が渡島35%、檜山29%と全道46%に対し低い割合となっています。

経営耕地規模では、5ha以下の階層が55%と非常に多く、全道との構造的な差が顕著となっています。

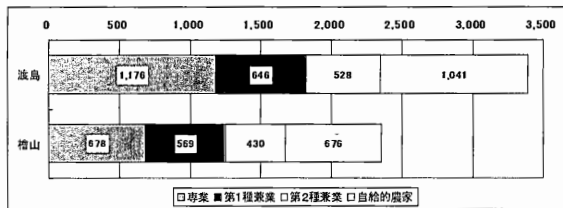


図1 農家戸数 (平成17年)

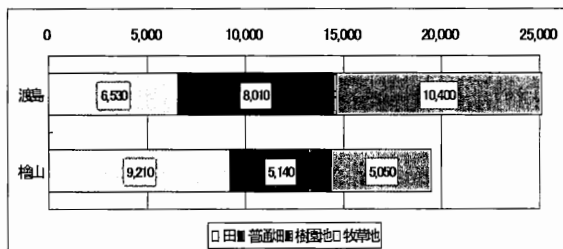


図2 耕地面積 (平成17年、単位: ha)

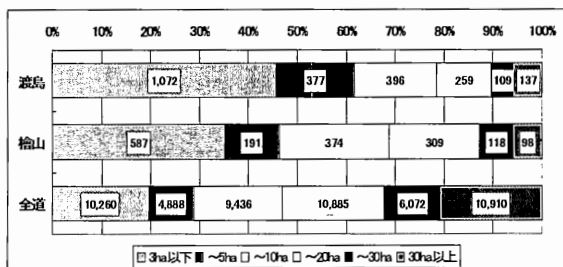


図3 経営耕地規模別の戸数割合 (平成17年)

#### (2) 農業算出額

農業算出額の減少が続いており、特にこの10年

間では農産部門が大きく減少しています。農産部門では米、畜産部門では生乳の生産量の減少と価格の低下が大きく影響しています。

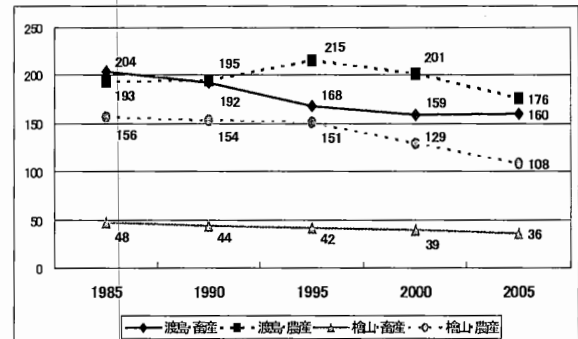


図4 農業産出額の推移 (単位: 億円)

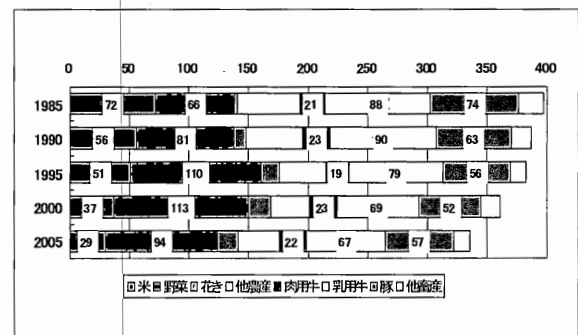


図5 渡島管内の作物別農業算出額の推移

### 2. 道南の酪農経営

#### (1) 乳用牛の飼養状況

酪農は、八雲町・せたな町など渡島半島北部が主産地となっており、飼養戸数はこの20年間で3分の1に減少し、飼養頭数も10年ほど前より減少傾向が続いています。

穏やかに規模拡大は進んでいますが、農家戸数の減少を補うまでには至らず、ここ数年は計画乳量が達成されない状況が続いています。

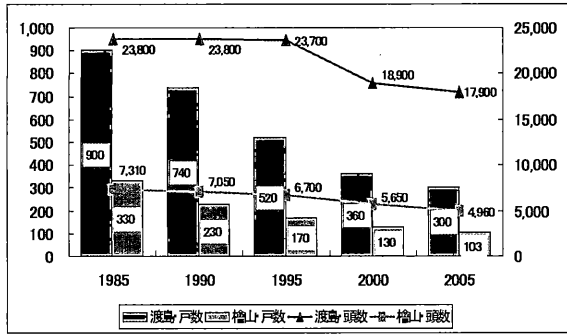


図6 乳用牛の飼養戸数・頭数の推移

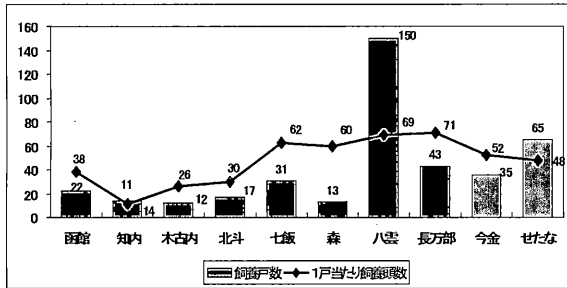


図7 市町村別の飼養状況 (平成17年)

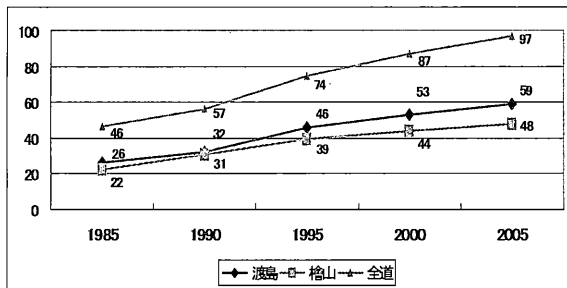


図8 1戸当たり飼養頭数の推移

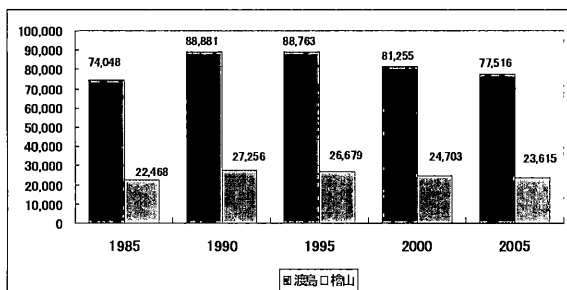


図9 年間生産乳量の推移 (単位：t)

(2) 酪農の生産構造

現状では、中規模で安定した経営が多い状況ですが、今後とも乳価引下げが予想される中、将来に向けての基盤作りが求められています。

最近の取組みとして、せたな町における法人経営の設立、八雲町におけるTMRセンターの設立、放牧酪農の推進が進められています。

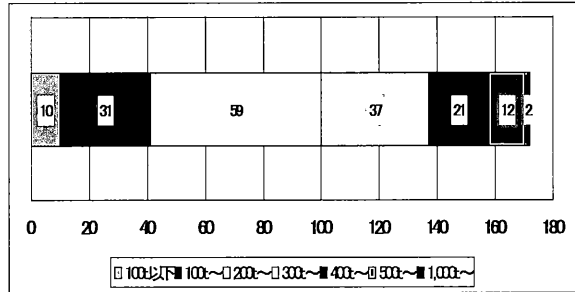


図10 年間出荷乳量の階層別戸数 (平成18年、八雲町・長万部町)

3. 道南の肉牛経営

(1) 肉用牛の飼養状況

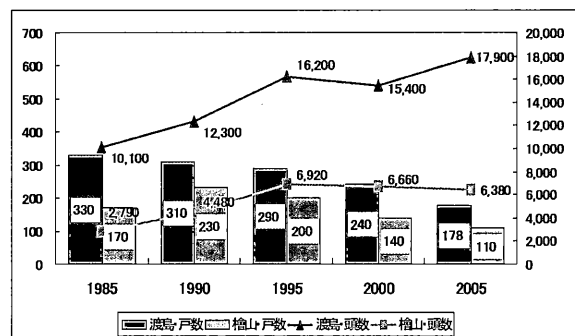


図11 肉用牛の飼養戸数・頭数の推移

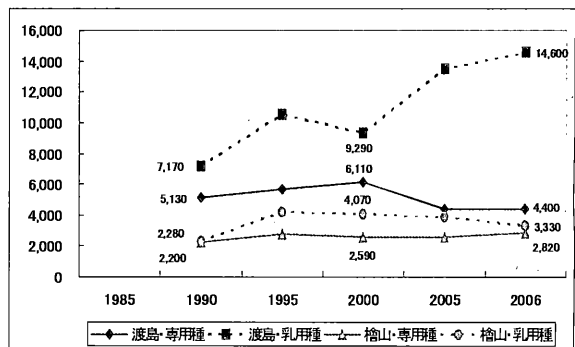


図12 肉用牛種別の飼養頭数の推移

高齢化に伴い、飼養戸数は年々減少傾向にありますが、飼養頭数では檜山管内がほぼ横ばい傾向にあり、渡島管内では乳用種（交雑種を含む）が増加傾向にあります。

(2)肉専用種の飼養状況

肉専用種では、道南地域の特徴である褐毛和種が飼養者の高齢化に伴う飼養中止や黒毛和種への転換に伴い大きく減少しましたが、最近では黒毛和種への生産意欲の高まりから、ほぼ横ばい状況にあります。

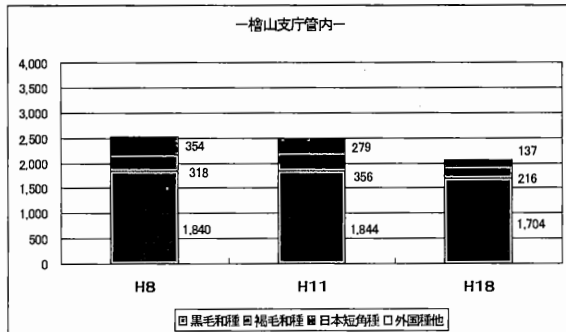
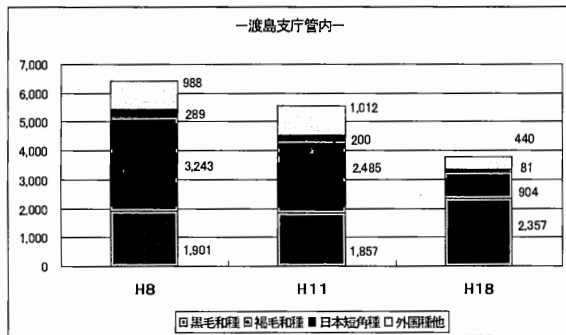


図13 肉専用種の飼養頭数の推移（各支庁調べ）

木古内町の褐毛和種肥育経営を除いては、ほとんどが繁殖経営であり、全域的には農産との複合経営が主体を占め、渡島半島北部では酪農からの転換経営や酪農との複合経営が営まれています。

優良繁殖牛群の維持拡大や飼養管理技術の向上による優良子牛の生産と、ほ場副産物や遊休地などの地域資源を活用した低コスト肉用牛経営を目指しています。

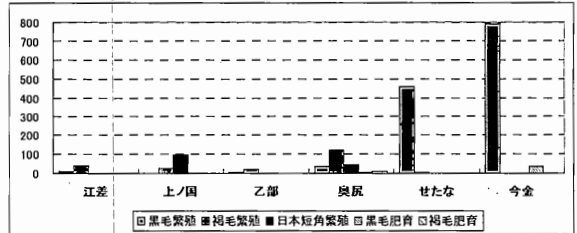
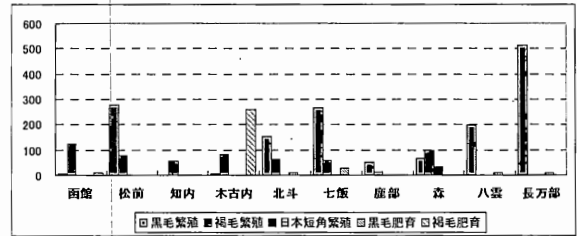


図14 市町村別の繁殖牛・肥育牛の飼養頭数（平成18年、各支庁調べ）

4. 道南の養豚経営

養豚は主に森町・八雲町で営まれており、大規模法人経営が主体となっています。

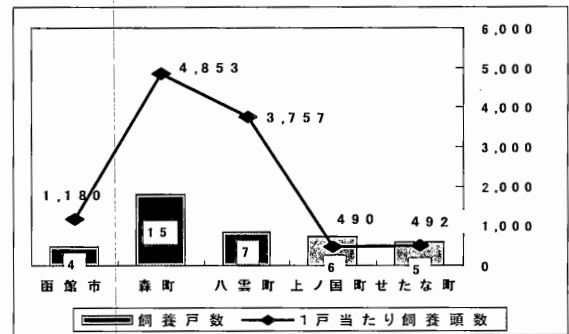


図15 主な市町村の飼養戸数・1戸当たり頭数（平成17年）

使用資料

- 1) 農林水産省「北海道農林水産統計年報」
- 2) 各支庁調べ「肉畜等に関する調査」
- 3) JA新函館八雲支店生乳生産実績

参考：八雲町での稲発酵粗飼料生産への取組み

(1)「八雲町稲WCS生産組合」の概要

- 設 立 : 平成14年3月
- 構成員 : 4戸
  - ・酪農稲作複合経営 2戸
  - ・稲作園芸複合経営 2戸

(2)ホールクロップサイレージの栽培体系

- 播 種 : 5月下旬
  - ・播種量 : 10kg/10a
  - ・品 種 : 風の子もち



ーラッピング作業ー



ー湛水施肥直播機による播種ー

- 除草剤散布 : 5月下旬、6月下旬
- 病虫害防除
  - ・隔離ほ場は無防除、他は最小限
- 収 穫 : 9月中旬
  - ・糊熟期を目処に収穫調製



ー飼料コンバインペーラによる刈取・梱包ー

(3)生産実績及び利用

- 生産実績 (平成18年)

作付面積	19.22 ha
収穫個数	1,298 個
1個重量	187 kg
総収穫量	243 t
10a収穫量	1,263 kg

- 飼料分析値 (乾物中%)

項目	稲ホールクロップサイレージ		H18全道平均(ホクレン)	
	H13産	H14産	1番サイレージ	コーンサイレージ
p H	4.5	3.9	4.6	4.1
乾物	31.9	31.3	30.1	30.8
C P	6.7	8.1	11.9	8.1
T D N	50.0	48.0	57.9	68.7
A D F	24.7	30.3	39.1	20.9
N D F	41.6	48.5	64.6	41.9
デンプン	29.6	17.4		23.0

- 利用農家の感想

[利用者1]

- ・経産牛5kg/日、20ヵ月齢以上育成牛8kg/日
- ・品質は1番牧草並、やや軟便気味となるが乳量は安定している。

[利用者2]

- ・経産牛5kg/日
- ・熟期が進んだものであれば、コーンサイレージの代替として利用は可能。